



新年号

発行所 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内 財団法人茨城県消防協会 編集発行人 消防協会長 大塚 光 印刷所 富士オフセット印刷(株) (1部 15円)

平成二十二年 消防出初式

新春を飾る消防出初式が、1月9日から11日の3日間を中心に県内各地で挙行されました。例年、当誌面でも日程表などを掲載しておりますが、本号では日立市及び土浦市の様子をスナップ写真でご紹介いたします。



日立市 (1/10)



土浦市 (1/9)



土浦市 (1/9)



新年のご挨拶

財茨城県消防協会 会長 大塚 光

平成二十二年の輝かしい新春を迎え、消防関係者の皆様にご挨拶申し上げます。消防団員・消防職員の皆様方が、常日頃から、消防防災の最前線に立ち、火災をはじめとしたあらゆる災害から地域住民の生命、身体、財産を守るため、日夜献身的なご尽力をされていることに対し、心からの敬意と感謝の意を表するものであります。また、消防関係諸団体の皆様方には、消防防災に対する深いご理解のもと、熱心にご活動されていることに対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

我が国の消防は、戦後、地域に密着した自治体消防として発足して以来、六十余年が過ぎ、この間、関係者の並々ならぬご努力によりまして、組織・設備の両面において着々と充実強化されております。すなわち、誠に同慶の至りでございます。

今年、消防の任務及び活動は、火災予防、警防、救急救助をはじめ、地震・風水害、火山噴火などの自然災害への対応と広範囲にわたり、地域住民の安心・安全確保に大きな役割を果たしているところでございます。

昨年、各地で台風や集中豪雨により、多数の死者を出し、災害が発生し、本県におきまして、十月の台風十八号により、土浦市や龍ヶ崎市の負傷者が出たほか、多くの家屋が損壊いたしました。こうした中、益々大きくなる消防の役割と住民の期待に応え、住民生活の平穏と安全を守って行くためには、消防の組織を上げて、英知を結集するとともに、崇高な消防精神の高揚と団結を図り、地域防災力の強化を図ることが不可欠であります。

本協会をいたしましても、消防の持つ使命の重要性を深く認識し、県民の『安全・安心』を第一といたしまして、

心身の確保のため、各種事業を積極的に推進しているところでございます。

特に、平成十九年度の理事会・評議員会で決議いたしました「女性消防団の結成促進に向けた取組み」につきましては、まもなく計画の三年間が終了するところでございしますが、各消防団長さんをはじめ、関係者の皆様のご熱意とご努力により、その数は決闘前に十三団であったものが、本年一月現在で二十五団となり、さらに四月にも複数の消防団で発足の運びとなっております。

どうか皆様におかれましても、心新たに「安全な地域づくり」のため、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様方とご家族様のご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

本格的な人口減少と少子高齢化、税収減や交付税の大幅削減による危機的な財政状況など、県行政を取り巻く環境は大変厳しいものがございますが、本年も、経済・雇用対策や聖域なき行財政改革に全力で取り組まながら、「一人が輝く元気で住みよい」ばらきづくりを進めてまいります。

このような中において、

民党から民主党へと劇的な政権交代が行われました。本年は、三月に首都圏三番目の空港となる茨城空港が開港するとともに、圏央道が常磐道のつばきJCTからつくば中央ICまで、東関東水戸線が茨城町JCTから茨城空港北ICまで開通する予定であるなど、広域交通ネットワークの整備が更に進んでまいります。



新年のご挨拶

茨城県知事 橋本 昌

消防関係者の皆様方の一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後に、皆様方のご健康、ご活躍をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

10mから50mモリタの梯子車
モリタの技術と設備は20種類以上の消防防災、総ての車を造ります。

完全水冷ラジエータ式、強制空冷式シバウラ小型消防ポンプ
SFシリーズ、TFシリーズ独特の2本立で総ての機能をご用意しております。

消防・防災用品全般、火の見櫓撤去・移設、ホスポール建立

茨城県代理店
(有) 鈴 機
石岡市国府5-2-25
TEL.0299(22)3010 FAX.0299(22)5846

Panasonic

自動火災報知設備
非常電源設備
自家発電設備
CVCF設備
FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店
株式会社入江電機工業所

本社 310-0031 水戸市大工町2丁目3番23号
TEL.029-224-4614 (代表)
FAX.029-224-4613

千波営業所 310-0851 水戸市千波町海道付2027番地
TEL.029-241-3636 (代表)
FAX.029-244-0540

土浦営業所 300-0061 土浦市並木1丁目2番20号
TEL.029-821-8498 (代表)
FAX.029-822-6575

トーハツ 小型消防ポンプ

充実のVシリーズ

V75ESからV10Fまで
豊富な機種でお客様のご要望にお応えいたします。

消防ポンプ自動車 消防用ホース
消火器 消防服装
消防資機材用品一式

茨城県代理店
トキワ産業株式会社
水戸市東原3-6-24
TEL.029(224)3324(代)
FAX.029(224)3360



第三回茨城県女性消防団 結成促進大会を開催

当協会は、男女共同参画社会の形成を受け、女性の特性を活かした独居老人宅の住宅防火診断や救命講習等で大きな成果を挙げている女性消防団を県内全域に拡大し、茨城県の消防団業務の充実強化を図ると共に、毎年減少している消防団員確保対策に資することを、『おおむね三年程度で県内全市町村に女性消防団を結成すること』を平成十九年の総会(理事会・評議員会)で決議しました。これを受け、女性消防団の活動事例等を紹介しながら、女性消防団の結成促進と県内の女性消防団員の交流を図るため、第三回となる女性消防団結成促進大会を十二月四日(金)に県庁九階の講堂で開催しました。

大会は、総務省消防庁国民保護・防災部防災課の飯島義典課長を講師に「女性消防団の役割及び活動事例」と題した講演で幕を開けました。

飯島課長は、まず、日本の地域防災体制における消防団の役割や特性について、次に



パネルディスカッション

女性消防団の重要性や入団促進、全国の活動事例などを、画像を使いながら分かり易く説明いただき、「消防団は地域コミュニティを支える大きな力」と存在意義を強調されました。また、本県は女性消防団員の加入促進に熱心な県として、その取組みに対し、大きな期待を寄せられました。

休憩後の意見発表では、四名の女性消防団員が、画像等を使って日頃の活動を紹介しました。発表内容は次のとおりです。

茨城県の消防団員数の推移

各年10月1日現在

性別	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
男性	26,070	25,890	25,629	25,436	25,109	24,838	24,606	24,462	24,229
女性	64	80	98	153	163	175	202	271	380
計	26,134	25,970	25,727	25,589	25,272	25,013	24,808	24,733	24,609
対前年比	-	△164	△243	△138	△317	△259	△205	△75	△124

☆県内市町村数：44 消防団数：48 (うち女性消防団数25)

内女性消防団の熱い活動」をテーマとしたパネルディスカッションは、本大会一回目からお世話になっている東京都赤羽消防団本部分団長の小澤浩子さんをコーディネーターに、飯島課長をアドバイザーに迎え、パネラーには消防団長から、女性消防団を結成して一年目、笠間市消防団の岡野清石正門団長(団長歴十三年)と結成五年目、ひたちなか市消防団の澤畑浩行団長(団長歴八年)、女性消防団員からは、常陸大宮市消防団の山崎正子部長(団員歴三年)、茨城町消防団の遠西淑子団員(団員歴六年)、阿見町消防団の山本みゆき団員(団員歴五年)に登壇していただきました。

小澤さんの巧みなリードで、結成までの苦労話や結成効果、活動事例や課題など様々な話を聞くことができ、本場に充実したパネルディスカッションとなり、参加者にも大いに参考になったものと思われまます。

第二部は、二階のレストラに会場を移して意見交換会を行いました。

意見交換会には、県から橋本知事や生活環境部の椎名部長、岡田危機管理監等の幹部職員に加え、飯島講師や小澤講師にもご出席いただき、飲食をしながら大いに情報交流を図ることができました。知事からは、この大会の盛況さや女性消防団のパワーに驚きながら、「女性の持つ特性を活かし、今後ますますの活躍を期待する。この熱いメッセージを頂戴しました。」

今回の参加者は、第一部の大会に三百八十名(消防団長等男性消防団員百七十九名、女性消防団員二百一十一名)、第二部の意見交換会に二百八十八名でした。

これらの活動の結果、消防団の結成状況は、十月現在で二十五団となっており、平成二十二年四月には新たに五つの消防団で設置が見込まれております。

今年度は当初の目標である三年目の年でしたが、これらの活動事例等を参考にしながら、今後とも結成に向けた取り組みにご協力をお願いいたします。

平成二十一年度 支部別消防団長等懇談会を開催

恒例の支部別消防団長等懇談会が、県南北部地区を皮切りに、以下の日程により、県内六支部で開催されました。出席者は、消防団長、消防団担当課長、消防主任並びに

- ・県南支部 九市町村 平成二十二年一月二十日 阿見町「かすみ公民館」
- ・県東支部 六市町 平成二十二年一月二十一日 大洗町「さかなや隠居」
- ・鹿行支部 五市 平成二十二年一月二十二日 鉾田市「ホテルさわや」
- ・県北支部 九市町村 平成二十二年一月二十九日 東海村消防本部
- ・県西支部 十市町 平成二十二年一月十九日 八千代町「ヒアンジュ結成家」
- ・県南支部支部 五市 平成二十二年十二月十一日 つくば市「山水亭」
- ・県南支部支部 五市 平成二十二年一月十九日 八千代町「ヒアンジュ結成家」

- 県から消防防災課長、消防学校長及び同職員、協会事務局です。
- 議題
- (一) 消防防災ヘリとドクターヘリの運用
 - (二) 平成二十二年消防学校教育訓練計画概要
 - (三) 女性消防団の結成状況と今後の活性化大会
 - (四) 日本消防協会の火災共済制度及び消防互助年金等
 - (五) その他(消防団員募集)懇談会は、まず消防防災課から、来年度更新される消防防災ヘリと来年度導入されるドクターヘリの運用について、続いて県立消防学校から消防学校の教育訓練計画について、それぞれ丁寧な説明を頂き、忌憚のない意見交換が行われました。

次に、平成十九年度の理事会・評議員会で決議し、三年間取り組んできた女性消防団の結成促進について、その成果と女性消防団結成促進大会の今後の進め方を鈴木事務局長から説明しました。

最後に、日本消防協会及び全日本消防人共済会が行う各種共済事業(福祉共済・火災共済・消防互助年金)について、加入促進を図るためのPRを鈴木事務局長から行いました。

いずれの会場でも、限られた時間の中で有意義な情報交換が出来たものと思われまます。

今年度も残すところあと二ヶ月、やり残しの無いようしっかりと頑張らないといけませんね。

(な)

平成二十一年度 支部別消防団長等懇談会を開催

守谷市消防団 救命講習開始

守谷市消防団から活動報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

守谷市消防団は、平成二十一年度から三ヵ年計画で全消防団員二百七十名の救命講習会受講をめざしています。

まず始めに、平成二十二年十一月二十二日(日)、守谷消防署に於いて、齋藤団長以下十一名・女性消防団員十名が、AEDを使用した救命講習会を受講しました。

今年度は、消防団本部と第一分団から第四分団まで、来年度は、第五分団から第八分団まで、平成二十三年度は、第九分団から第十三分団までの団員が受講する予定です。守谷市では、AEDを公共施設二十九箇所、その他十二箇所に設置しています。

※皆様の日頃の活動や話題に関する寄稿を心より、お待ちしております。



救命講習を受講する女性団員

編集後記

平成二十二年の消防出初式は、三連休に集中しましたが、概ね穏やかな天候に恵まれ、無事終了した模様で、何よりでした。

それに比べて国会は、「政治とカネ」の問題で、依然ゴタゴタが続き、スッキリ快晴とはいかないようです。

今年度も残すところあと二ヶ月、やり残しの無いようしっかりと頑張らないといけませんね。